

医学研究センター

知財戦略研究推進部門

岡崎 康司
(部門長)

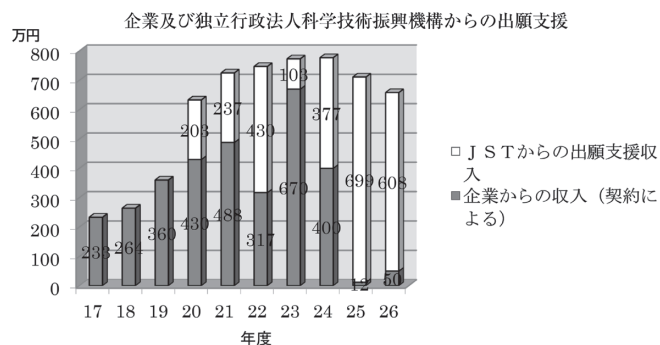
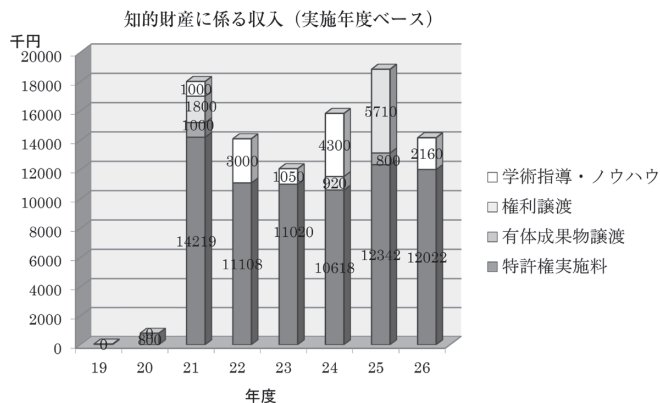
知財戦略研究推進部門は、「知的財産管理運用部門」と「産学連携部門」を統合し平成19年12月に発足しました。当部門は平成18年度から特許庁の支援事業（「大学知的財産アドバイザー派遣事業」）を受けてスタートしました。3年間の支援期間によって、当初想定していた以上に良い方向で着地することができ、平成21年度より自立した組織としてスタートを切りました。

埼玉県の補助事業で平成22年度から24年度まで産学官コーディネーターおよび補助員を採用しました。更に25年度からは産学官連携アドバイザーを採用し、産学官連携の新たな活動を開始することができました。

平成22年度から昨年度まで埼玉県が主催する「次世代産業カレッジ」事業に参画し、本学の先生によるセミナーを通じて企業や他大学とのネットワークを形成しながら、経営マインドを持つ中小企業の技術者を育成することと、本学のシーズ・ニーズを紹介して企業との連携を強化してきました。

現在（平成27年5月1日）までに33件の特許が成立し、保険適用となった臨床検査向け特許（「特許第4216266号」）技術が現場において活用されるに至り、産学官連携による人類の健康や福祉への貢献が目に見える形となって参りました。そのランニングロイヤリティは、次の発明の創出に向けて研究者及び法人に還元され、まさに知的創造サイクルが回り始めたものと実感しています。

平成26年度の知的財産に係る収入（実施年度ベース）は、技術供与で216万円、特許権実施料収入で1,202万円、総額は1,418万円となりました。なお、特許の出願費用については、企業に支援して頂けるよう交渉し、また、独立行政法人科学技術振興機構（以下、JSTと略す）へ支援申請して出願費用の608万円分の支援をいただくことが決まるなど、出願費用の負担を軽減する努力をしています。



※企業からの収入：共同出願契約等において、本学が負担すべき費用等を企業に負担していただいた場合の費用を収入として換算した。

当部門の活動の成果として、文部科学省が平成26年11月28日に公表した平成25年度の大学等における産学連携等実施状況調査の結果において、『特許権実施料収入』で医学部を持つ全国私立29大学の中で第4位、全国全ての大学の中では第19位にランキングされました。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/_icsFiles/afieldfile/2014/12/15/1353580_01_1.pdf)

知財戦略研究推進部門の主たる役割は、本学の英知と時代のニーズとの橋渡しを行うことによって社会に貢献していくためのサポートを行うこととあります。以下に、平成26年度における様々な成果や活動状況の一端についてご紹介させていただきます。

No	機関名	千円
1	日本大学	96,293
2	北里大学	32,767
3	慶應義塾大学	21,039
4	埼玉医科大学	18,472

■特許査定

研究者との面談や弁理士との協議を積極的に行い、11件の特許が成立した。

- ① 発明の名称：「SARSコロナウイルスの細胞傷害性T細胞エピトープペプチド及びその用途」（中国）
出願日：平成23年5月27日
登録日：平成26年4月16日
発明者：松井政則
- ② 発明の名称：「抗癌剤投与後の大腸癌患者の予後予測方法」（日本）
出願日：平成17年7月29日
登録日：平成26年6月27日
発明者：平山廉三，市川度
- ③ 発明の名称：「PHASE CONTROLLER」（米国）
出願日：平成22年12月28日
登録日：平成26年7月15日
発明者：黒田寛人，馬場基芳，米谷新
- ④ 発明の名称：「DOUBLE-STRANDED NUCLEIC ACID MOLECULE, CANCER CELL PROLIFERATION INHIBITOR AND PHARMACEUTICAL AGENT SUITABLE FOR PREVENTION TREATMENT OF CANCER」（米国）
出願日：平成21年3月11日
登録日：平成26年8月19日
発明者：井上聡，池田和博
- ⑤ 発明の名称：「CYTOTOXIC T CELL EPITOPE PEPTIDE FOR SARS CORONAVIRUS, AND USE THEREOF」（米国）
出願日：平成21年11月27日
登録日：平成26年9月9日
発明者：松井政則
- ⑥ 発明の名称：「関節リウマチ活動性指標を同定する方法及びそれに用いるバイオマーカー」（日本）
出願日：平成23年11月17日
登録日：平成27年1月9日
発明者：天野宏一
- ⑦ 発明の名称：「鳥インフルエンザワクチン」（日本）
出願日：平成21年11月27日
登録日：平成27年1月9日
発明者：松井政則
- ⑧ 発明の名称：「METHOD OF DISTINGUISHING INFLAMMATORY PATHOGEN CAUSING ACUTE RESPIRATORY INFECTION」（欧州）
出願日：平成21年3月3日
登録日：平成27年1月14日
発明者：萩原弘一，平間崇
- ⑨ 発明の名称：「癌の予防乃至治療に好適な二本鎖核酸分子，癌細胞増殖抑制剤，並びに医薬」（日本）
出願日：平成21年3月11日
登録日：平成27年1月23日
発明者：井上聡，池田和博
- ⑩ 発明の名称：「SARSコロナウイルスの細胞傷害性T細胞エピトープペプチド及びその用途」（日本）
出願日：平成21年11月27日
登録日：平成27年1月30日
発明者：松井政則
- ⑪ 発明の名称：「METHODS FOR EVALUATING RISK OF MOTHERS MILK OR FOOD INDUCING AN ONSET OF ATOPIC DERMATITIS, AND MOTHERS MILK OR FOOD WITH REDUCED RISK OF INDUCING AN ONSET OF ATOPIC DERMATITIS」（米国）
出願日：平成22年10月26日
登録日：平成27年3月31日
発明者：松下祥，東丈裕

■海外出願支援

今後は、知財戦略研究推進部門として、本学で生まれる発明を日本のみならず外国においても積極的に特許として権利化していきたいと考えています。

しかし、外国で権利化するためには、多額の資金が必要になるため、科学技術振興機構（JST）の「海外特許取得のための出願費用支援制度」に積極的に申請し、外国での権利化を図っていく努力を続けています。

昨年に引き続き本年もJST支援制度に14件申請し、6件採択（審議中4件、不採択4件）となり海外出願に関わる費用を支援して頂きました。

平成25年度にJSTから受けた出願支援総額は、608万円でした。

＜平成26年度産学官連携活動実績＞

■埼玉県事業「次世代産業カレッジ」のセミナー開催

埼玉県が取り組んでいる「次世代産業カレッジ」事業に参加し、中小企業との産学官連携活動を行いました。

開催日：平成26年10月28日（火）13:30～17:20

開催場所：埼玉医科大学 日高キャンパス 創立30周年記念講堂 2階講義室

講師：

1. 遺伝子解析の原理とビジネスの現状／医学研究センター ゲノム医学研究センター 所長 岡崎康司
2. 医療分野における画像処理技術の応用／保健医療学部 医用生体工学科 教授 小林直樹
3. 医学部と産学連携を成功させるには ～埼玉医科大学における事例紹介～／医学研究センター 知財戦略研究推進部門 副部門長 安河内正文
4. 施設見学
 - A. 国際医療センター
 - B. 保健医療学部

■医工連携セミナー

本学と埼玉りそな銀行が主催して「医工連携セミナー」を開催しました。

本学と埼玉りそな銀行とは地域経済、社会の発展並びに日本の医学・医療の発展に寄与すべく、2007年に「産学連携協力に関する覚書」を締結しており、共同研究・開発、受託契約、医工連携等に関して相互協力を行っております。今回、医療機器分野へ関心を持たれている埼玉県内の企業様を対象に本学の開発ニーズや事業化への事例を紹介しました。

セミナー終了後に保健医療学部と国際医療センターの見学会を実施し、参加者からは大変参考になったと好評でした。

開催日：平成26年12月16日（火）13:30～18:00

開催場所：埼玉医科大学 日高キャンパス 創立30周年記念講堂 2階講義室

講演テーマ／講師：

1. 埼玉医科大学の取組み ～パラダイムシフトを迎えたC型肝炎の治療～／大学病院 消化器内科・肝臓内科 教授 持田智
2. 改正薬事法の概要（特に医療機器関係）／埼玉県 保健医療学部薬務課 医療機器審査・監督担当 主幹 藤田和昭
3. 埼玉医科大学の産学連携体制について／医学研究センター 知財戦略研究推進部門 客員講師 豊田浩一
4. 施設見学
 - A. 国際医療センター
 - B. 保健医療学部

■彩の国ビジネスアリーナ2015へ出展

本展示会は、様々な分野の企業・団体が参加する、国内最大級の展示商談会であり、今回は埼玉県産業振興公社のご協力で例年の2倍の面積の展示スペースが確保でき下記の4演題をパネル展示で紹介しました。

更に、医療系ものづくり産業埼玉プロジェクトの展示ブースでは、本学が主要メンバーとして関わっている2つのプロジェクトの展示とデモを行いました。

- ①医療検査機器開発 パネル3枚とデモ機
- ②光学を応用した血液検査機器開発 パネル4枚とデモ機

開催日：平成27年1月28、29日

開催場所：さいたまスーパーアリーナ

パネル展示テーマ／発表者：

1. 埼玉からiPS細胞産業を通じて未来を切り開く／ゲノム医学研究センター TR部門 講師 加藤英政

2. 知っておこう－心筋梗塞をおこさないために／医学部 内分泌・糖尿病内科 准教授 井上郁夫
3. 非侵襲血糖測定技術／保健医療学部 医用生体工学科 教授 戸井田昌宏
4. 埼玉医科大学の産学連携の紹介／医学研究センター 知財戦略研究推進部門

本学の皆様には知財戦略研究推進部門の活動内容をご理解頂き、実際の発明案件や発明に関すること及び産学連携に関しての質問等がありましたら、気軽に声をかけて頂きたいと考えています。知財戦略研究推進部門は、日高キャンパスのゲノム医学研究センターの6Fにありますが、ご相談があればこちらから皆様のもとへ伺わせて頂きます。本年も知財戦略研究推進部門を何卒宜しくお願い致します。